菓子類の認知度および嗜好性について

On Recognition and the Preference of Confectionery

吉　田　惠　子
Keiko YOSHIDA

柳　生　純　代
Sumiyo YAGYUU

小　松　明　美
Akemi KOMATSU

荒　井　桃　子
Momoko ARAI

岸　百　合　恵
Yurie KISHI

鈴　木　康　代
Yasuyo SUZUKI

安　田　早　希
Saki YASUDA

Ⅰ　緒言

和菓子や洋菓子などの菓子類は，わが国においては専門店で製造販売されるものであった。しかし近年加工食品の発展が目覚しく，菓子類についても多種類のものが工場で大量に製造されている。これらがスーパーやコンビニエンスストアーで販売され入手しやすい状況にある。しかし工場で作られる菓子類は現在売れるものが中心で，伝統的な和菓子などは少ない。調理実習の授業時に学生に和菓子について質問すると学生の認知度は低く，わが国の伝統的な和菓子は若い年代には遠い存在になっているのを感じる。菓子類の認知度，嗜好は年齢によりかなり差があると思われる。

菓子類に関する現在までの報告は，菓子の分類について：菓子の嗜好調査による分類の試み[1]，大衆菓子の嗜好とイメージについての調査[2]がある。また高坂らは，菓子に関する調査第１報[3)4)5)6)]から第４報を報告している。これらは学生の菓子に対する嗜好性と利用状況，学生の洋菓子店およびケーキ喫茶の利用について調査したものである。その結果，学生は洋菓子やスナック菓子を好んで利用していると報告している。現在のところ菓子類について認知度や嗜好性を，年代別に検討している報告はない。

そこで本研究は種々の菓子類についての認知度および嗜好性について調査することを目的とした。18歳以上の人を対象とし，年齢別に検討し各年代での差を明らかにすることも目的とした。これらを調べ検討することは，将来栄養士としての仕事に従事する学生に対する教育の基礎資料として有用であると考える。

Ⅱ　方法

1．調査方法：アンケート用紙（図－１）を作成し，これに記入してもらった。

2．実施時期および人数：平成19年10月の本学の文化祭来学者（63名），平成19年12月，本学の学生・職員・教員およびその家族（230名）合計293名
　18～20歳代：178名（女性62名，男性16名）
　30歳以上：115名（女性81名，男性34名）

3．項目：洋菓子，和菓子中華菓子の代表的なものを選びその写真（図－２）をアンケート用紙に添付した。その写真をみながら各菓子の認知度，嗜好について回答した。また日常食べる菓子類の種類を，Ⅰスナック類　Ⅱ洋菓子　Ⅲ和菓子　Ⅳ中華菓子　Ⅴせんべい類にわけ，食べる頻度についても調べた。

4．集計：単純集計を行い，検定はマン・ホイットニ検定を用いた。

お菓子に関するアンケート

年齢　　性別　男　女　　主に育ったところ【　　県】【　　市】

1. 洋菓子、和菓子、中華菓子について、該当するところに○をつけてください。
知っていて、食べたことがあるなら、嗜好についても答えてください。

		知っている		知らない	食べたことがある人は答えてください。		
		食べた事がある	食べた事ない		好き	普通	嫌い
1	イチゴショートケーキ						
2	モンブラン						
3	タルト						
4	パウンドケーキ						
5	クッキー						
6	マドレーヌ						
7	シュークリーム						
8	パイ類						
9	ワッフル						
10	ドーナッツ						
11	クレープ						
①	大福						
②	どらやき						
③	最中						
④	団子(あん)						
⑤	団子(みたらし)						
⑥	羊かん						
⑦	鹿の子						
⑧	きんつば						
⑨	カステラ						
(1)	杏仁酥 (しんれんすー)						
(2)	月餅						
(3)	蒸しカステラ						
(4)	中華のパイ						
(5)	ゴマ団子						

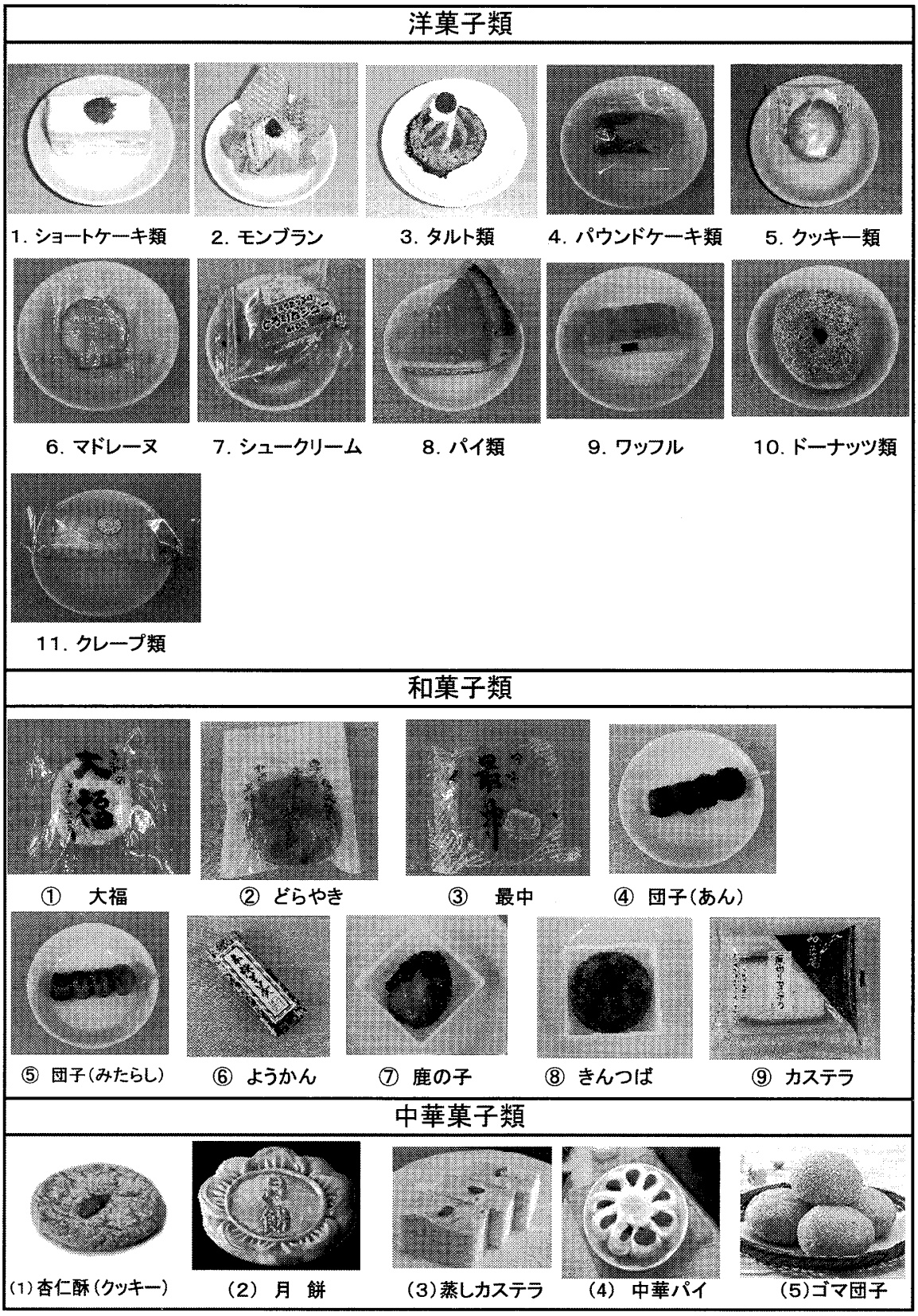
2. お菓子全般について
よく食べるお菓子は？
該当する欄に、丸を入れて下さい。

	よく食べる	普通	あまり食べない	ほとんど食べない
1. スナック類				
2. 洋菓子				
3. 和菓子				
4. 中華菓子				
5. せんべい類				
6. その他				

3. その他　今までに出ていないお菓子で、食べるお菓子があったら書いてください。

アンケートにご協力ありがとうございました。

図－1　アンケート用紙


洋菓子類
1. ショートケーキ類
2. モンブラン
3. タルト類
4. パウンドケーキ類
5. クッキー類
6. マドレーヌ
7. シュークリーム
8. パイ類
9. ワッフル
10. ドーナッツ類
11. クレープ類
和菓子類
① 大福
② どらやき
③ 最中
④ 団子(あん)
⑤ 団子(みたらし)
⑥ ようかん
⑦ 鹿の子
⑧ きんつば
⑨ カステラ
中華菓子類
(1) 杏仁酥(クッキー)
(2) 月 餅
(3)蒸しカステラ
(4) 中華パイ
(5)ゴマ団子

図－2　菓子見本写真

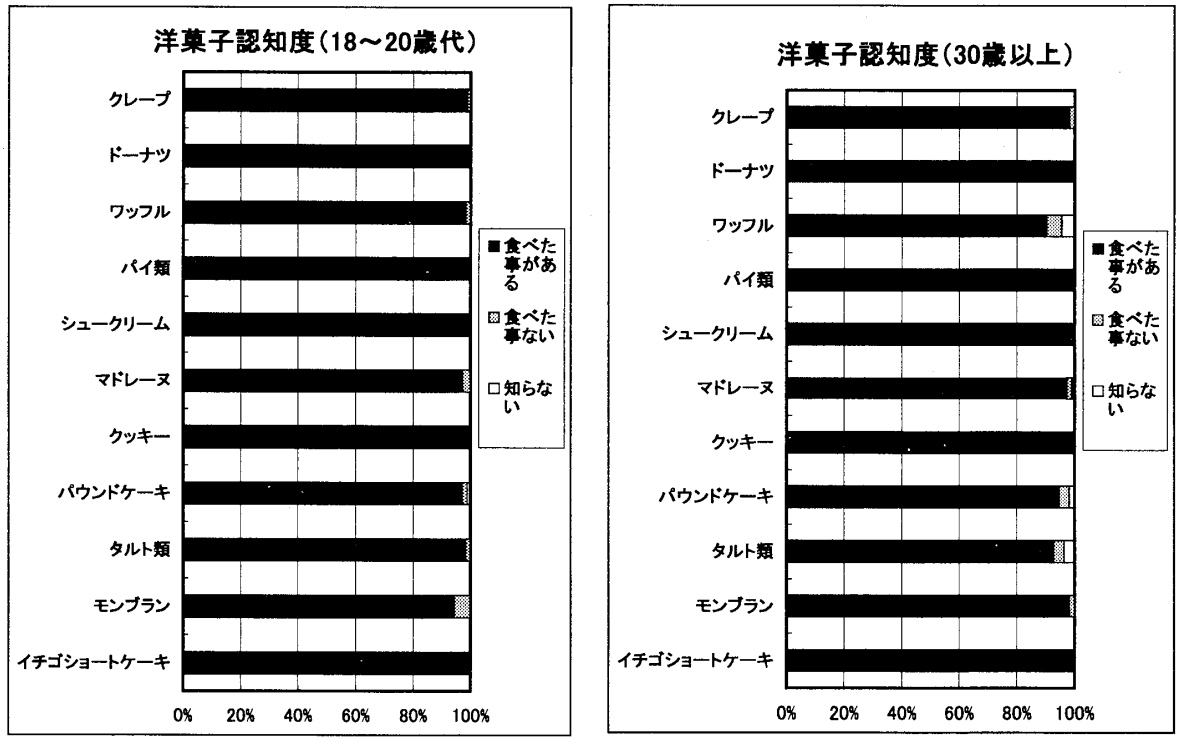
Ⅲ　結果および考察

今回は性別の割合の比率が適当でないため，年代での比較のみ行った。年代を18歳～20歳代と30歳以上の２群にわけ検討した。

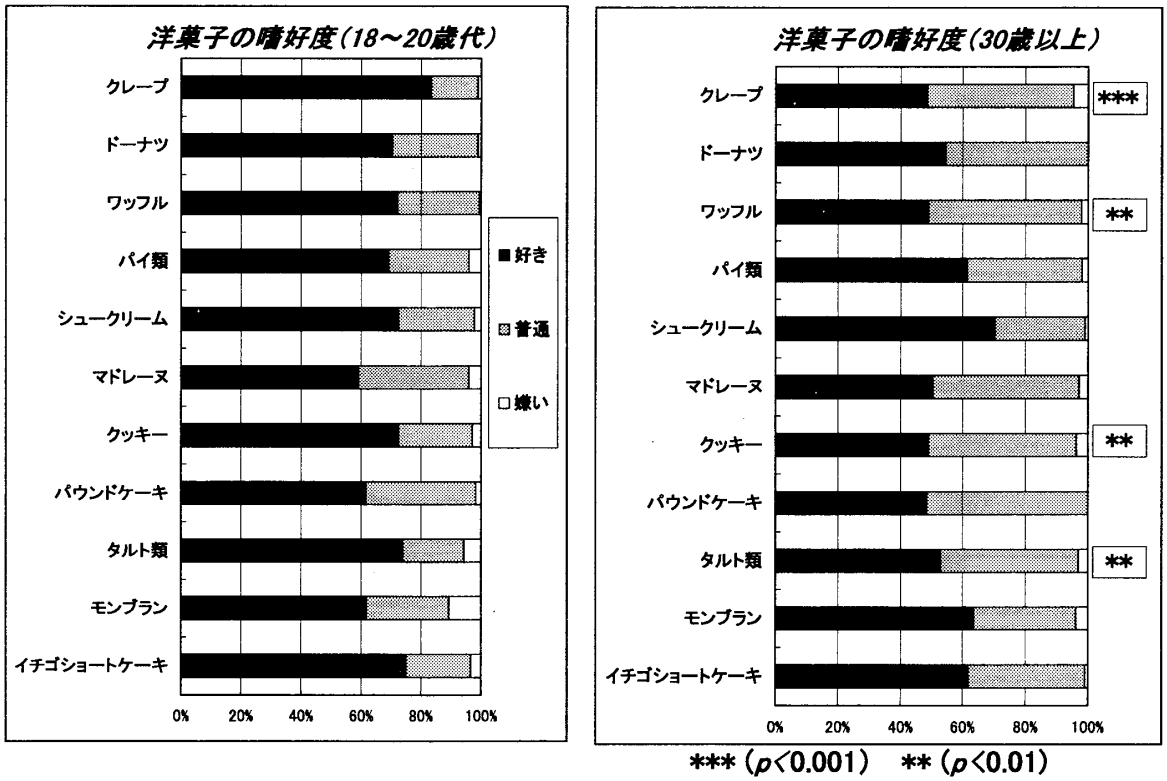
１．洋菓子の認知度と嗜好

洋菓子の認知度は，図－３．１に示した。代表的な洋菓子についての回答であったので，ほとんどの人が食べたことがあるという回答であった。少人数であるが，18～20歳代では，モンブランとマドレーヌが食べたことがない，30歳以上では，タルト類，ワッフル，クレープが食べたことがない，知らないという回答があった。

嗜好については図－３．２に示した。クレープは，0.1％の危険率で有意に若い年代に好まれていた。またワッフル，クッキー，タルト類は１％の危険率で若い年代に好まれていた。この４種の洋菓子は，わが国で販売されたのは比較的新しいものであることが，30歳代以上にはあまり好まれなかったという理由と思われる。しかし全体的にみると，洋菓子で，嫌いと答えた人はわずかであり，洋菓子は年齢を問わず好まれていることがわかった。



図－３．１　洋菓子の年代別認知度

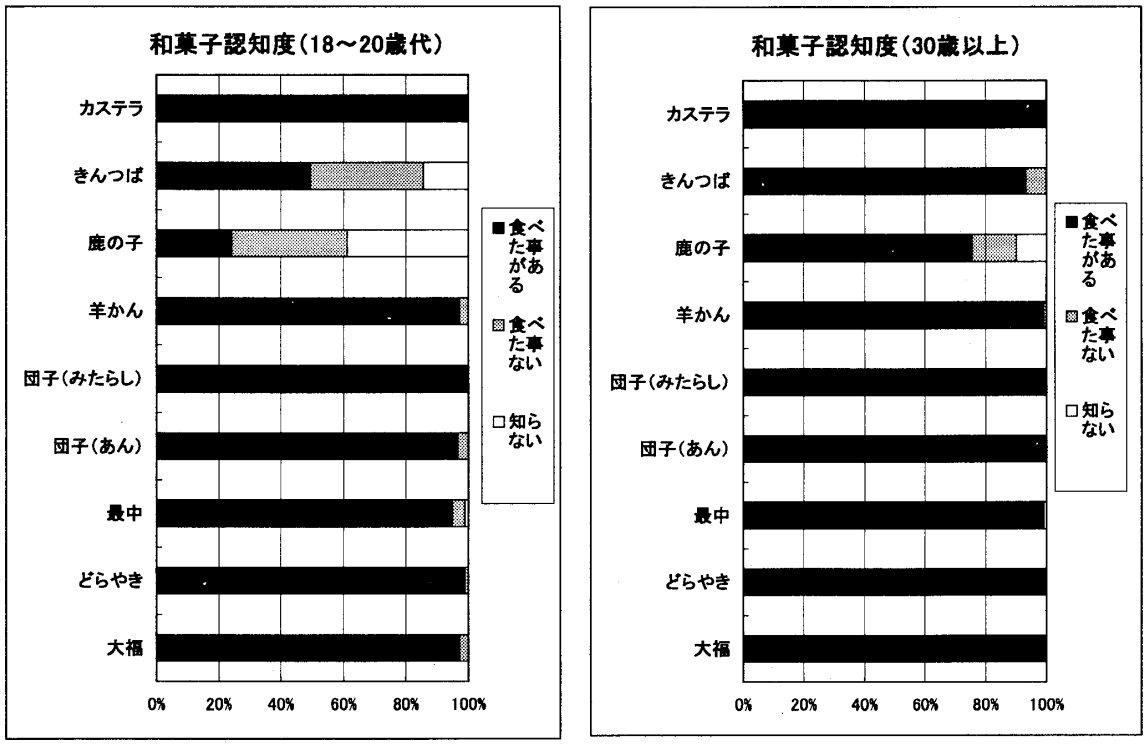


図－３．２　洋菓子の年代別嗜好度

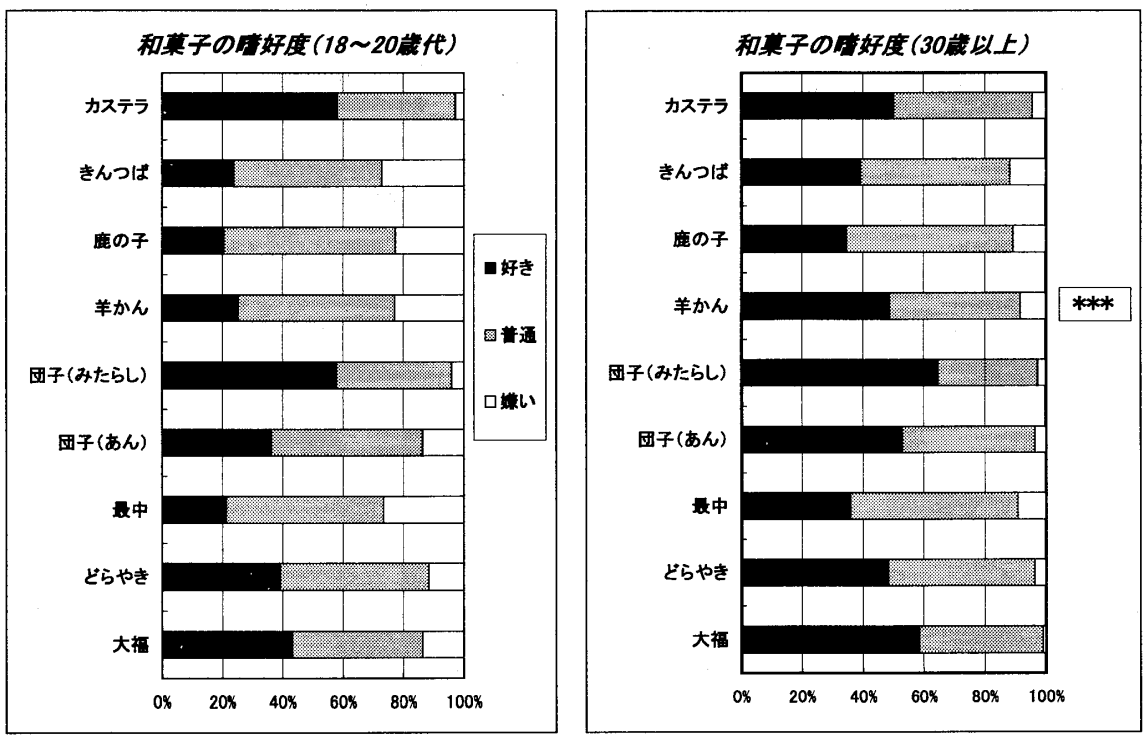
２．和菓子の認知度と嗜好

図－４．１が和菓子の認知度のグラフである。鹿の子，きんつばが年代を問わず，食べたことがない，知らない人がいた。特に18～20歳代は知らない人が多かった。鹿の子とは，求肥または羊羹をあんで包んで丸め，その周囲に甘く煮た小豆，白いんげんなどを張り付けたもので，表面の小豆の粒が鹿の背の斑点に似ていることからこの名があり，江戸時代から伝わっている和菓子である。またきんつばは，四角に切ったあんを，薄くといた小麦粉の液につけ，鉄板の上で焼いたもので，「つば」の名は，当時の形が刀のつばに似ているところからきているといわれている和菓子である。これらは，従来町の和菓子屋さんには必ず売られていた代表的な和菓子である。今は大型店の進出とともに和菓子屋さんが閉店し大型店ではこのような和菓子はあまり需要がないこともあり製造しない傾向にある。このような背景で認知度が低いという結果になったものと考えられる。

図－４．２が，和菓子の嗜好度のグラフである。洋菓子と比較すると，好きが50％以上のものは，どの年代でもみたらし団子，カステラのみであり30歳以上ではこれに大福が加わっただけである。すべての和菓子で，嫌いと答えた人数が10％～20％いた。羊かんについては，若い年代で嫌いという人数が20％以上いたことから，0.1％の危険率で30歳以上の人に有意に好まれているという結果であった。



図－４．１　和菓子の年代別認知度



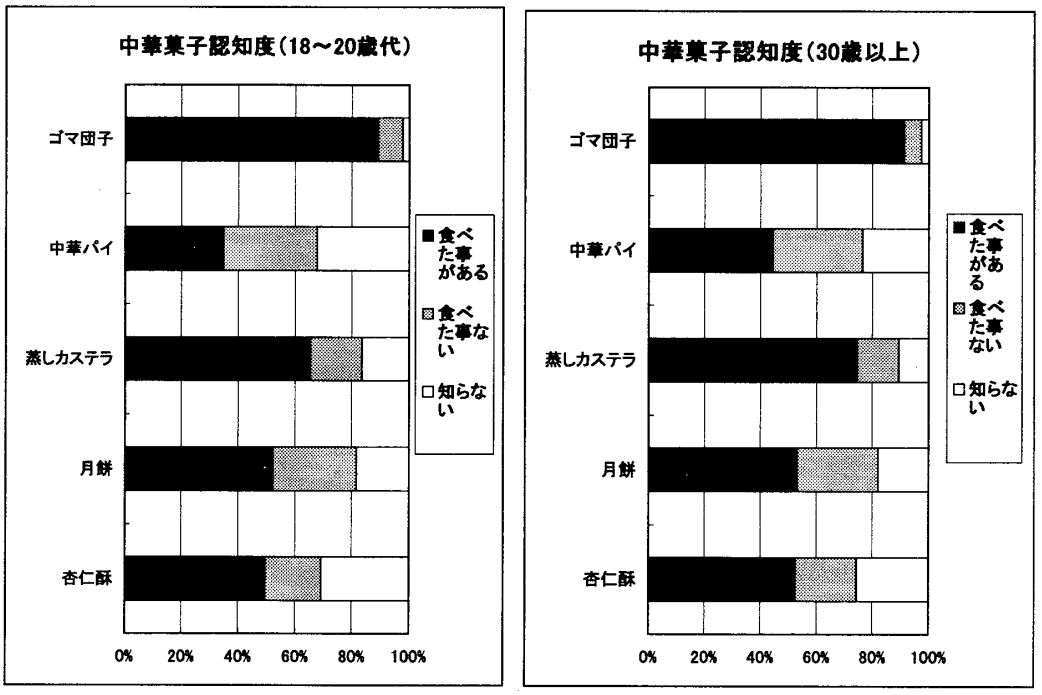
図－４．２　和菓子の年代別嗜好度

3．中華菓子の認知度と嗜好

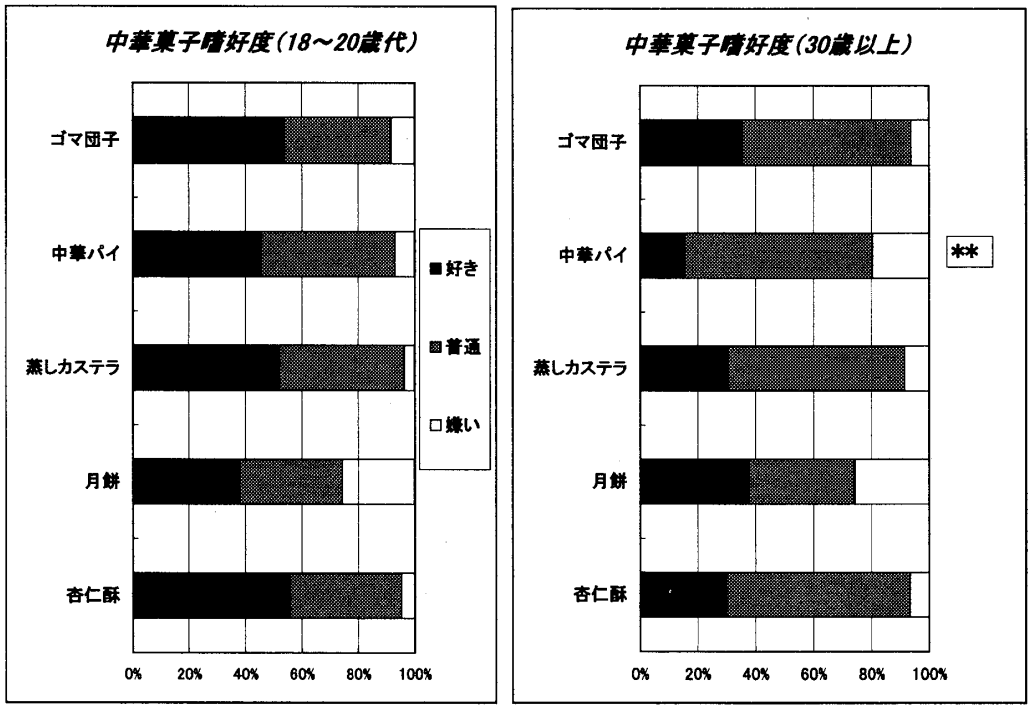
図－5．1は中華菓子の認知度のグラフである。ゴマ団子が90％以上の人が食べたことがあると答えた。その他の中華菓子は，スーパーやコンビニエンスストアーでも販売が少ないせいか，認知度は低かった。

図－5．2に嗜好度を示した。中華菓子の嗜好の傾向は和菓子と同様であった。特に月餅は好きと答えた人が40％弱であり，普通，嫌いと答えた人が大半であった。クッキーである杏仁酥は30歳以上の人には特に好まれなかった。中華パイは，0.1％の危険率で，30歳以上の人に有意に好まれなかった。

これは洋菓子においても，クッキーやパイ類は30歳以上の人は，あまり好まないことと一致している。



図－5．1　中華菓子の年代別認知度



図－5．2　中華菓子の年代別嗜好度

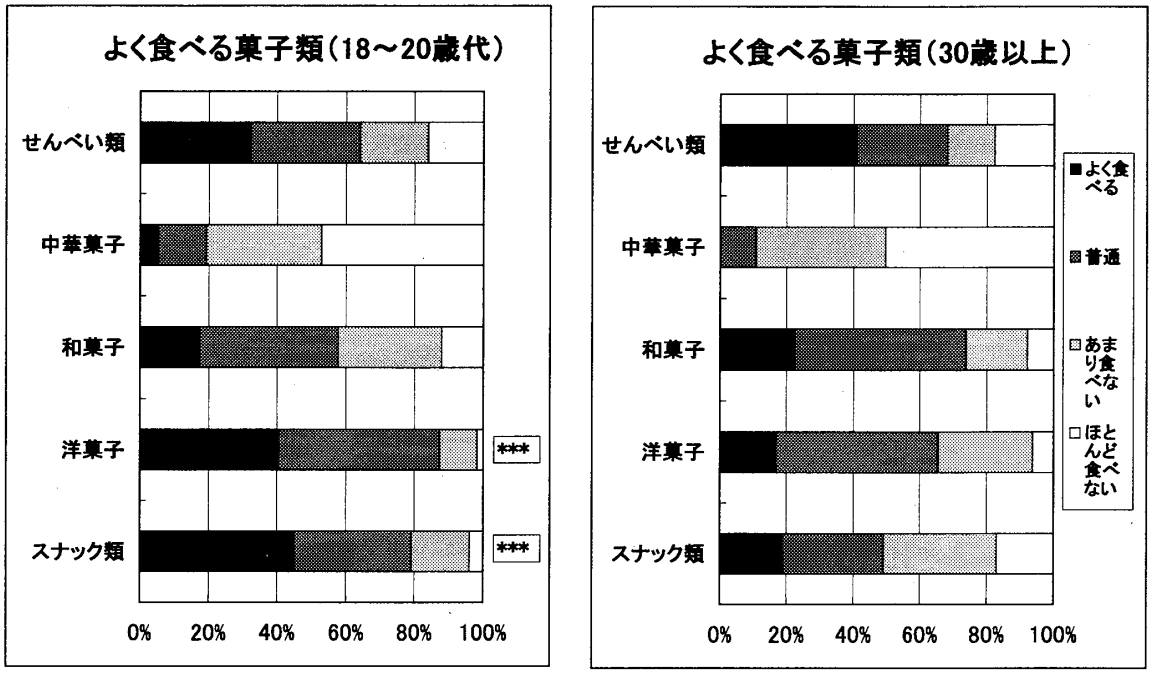
4．よく食べる菓子について

図－6に日常よく食べる菓子についての結果を示した。

せんべい類は年代を問わず，40%の人が良く食べ，普通を入れると70%の人が食べていた。中華菓子は日常的にはあまり食べられず，80～90%の人があまり，ほとんど食べないと答えていた。和菓子は18～20歳代は40%強の人が，30歳以上では30%弱の人があまり，ほとんど食べないと答えた。洋菓子は0.1%の危険率で，有意差がみられ，若い年代の人に好んで食べていた。またスナック類は，30歳以上の人はあまり，ほとんど食べない人が50%強を示し，若い年代では80%の人が良く食べる，普通と答え，0.1%の危険率で有意差が認められた。

5．その他の食べる菓子について

例に挙げた以外に食べる菓子とした，スイートポテト，プリン，アメ，饅頭類，おはぎ，くずもち，フィナンシェ，ドーナッツ，ホットケーキ，ういろう，チョコレートケーキなどが挙げられた。



図－6　よく食べる菓子の年代別比較

Ⅳ　要約

菓子類について，洋菓子，和菓子，中華菓子にわけ年代別の認知度・嗜好度を調べた結果，以下のことが明らかとなった。

1．洋菓子の認知度は年代別での差はほとんどみられなかった。

2．洋菓子の嗜好度はクレープ，ワッフル，クッキー，タルトに年代別の有意差がみられた。20歳代以下に好まれていた。

3．和菓子はきんつば，鹿の子の20歳代以下の認知度が低かった。

4．和菓子の嗜好度は羊かんに有意差がみられ，30歳以上に好まれた。

5．中華菓子の認知度は年代別に関わらず低く，ゴマ団子の認知度が高かった。

6．中華菓子の嗜好度は中華パイに有意差がみられ，20歳代以下に好まれた。

7．よく食べる菓子の年代別比較では洋菓子，スナック類に有意差がみられ，これらは20歳代以下に好まれていた。

以上のことより，認知度の高い菓子類は好まれ，認知度の低い菓子は好まれない傾向にあった。現在市場に出ている菓子類は洋菓子が中心であり，和菓子は限られた種類しかない。また洋菓子類は，クリーム類や果物類などが同時に食べることができ，味に面白さがある。一方，和菓子については，市場で見ることも少なく，認知度も低く食べる機会が少ないことなどから，食べたことがなく，また好まないという結果であった。若い年代が，年齢が経るとどのような嗜好に変化していくのか興味あることである。中華菓子については，わが国では市場においても一般的な菓子ではないといえよう。栄養面から考えれば，洋菓子のほうが和菓子よりも，脂質が含まれるこ

とからエネルギー量は高い。また和菓子の材料である豆類は，機能性に富んだ食材であるので健康にも寄与する。今後このような観点も含め，洋菓子と和菓子の嗜好の差の理由なども検討していきたい。

本研究は，第六回茨城県栄養健康改善学会（平成20年2月15日，茨城キリスト教大学）で発表したものである。アンケートは，第39回紫峰祭（平成19年10月7日）で行ったものと，学生と家族，本学の教職員にも協力してもらい行ったものである。アンケートにご協力いただいた方々に感謝いたします。

【参考文献】

1）林　淳一：同志社女子大学学術研究年報，32，pp. 200－217（1981）
2）林　淳一：同志社家政，20，pp. 19－36（1987）
3）高坂廣志，藤本珠美，東尾志津子：大阪女子短期大学紀要，27，pp.107～113（2002）
4）高坂廣志，藤本珠美，東尾志津子：大阪女子短期大学紀要，27，pp.115～122（2002）
5）高坂廣志，藤本珠美，東尾志津子：大阪女子短期大学紀要，28，pp.121～129（2003）
6）高坂廣志，藤本珠美，東尾志津子：大阪女子短期大学紀要，28，pp.131～138（2003）